

加茂里山通信

平成16年
秋号

発行 市原商工会議所
加茂里山青年部
発行責任者 大曾根 友三
編集長 佐久間 真明

月出小が音楽の館に

8月26日(木)、27日(金)、28日(土)の三日間にわたって「楽器挫折者救済クリニック」月出小学校がおこなわれました。
このクリニックは「楽器演奏に再びチャレンジしたい」という人を対象に、普段は河口湖でおこなわれていますが、今回は月出小学校をはじめ、各関係者のご理解と協力により、市原商工会議所主催の夏休み特別企画として、市原市での開催が実現したものです。
月出小学校の黒沼校長先生と五年生の秋田千里さんに感想を寄せていただきましたので、ご紹介します。

楽器挫折者救済クリニックin月出小

『楽器挫折者救済クリニックin月出小学校』に協力して月出小学校校長 黒沼 純 全校児童三人の小学校に「参加者の他、発表会には五十人位の観客が集まる」との主催者の話を聞いた時、私は地域の活性化、そして子供たちの社会性の育成のためにこの上ない企画だと思ひ賛同しました。

子供たちも三日間参加し、ひとつの課題曲を完成させるため、仲間と協力し一生懸命努力する姿を見たり、その努力の結果が少しずつ実を結んでいく経過を肌で実感したり、最後に発表会で演奏が終わったメンバーの充実感に溢れた顔を目の当たりにして、何かを感じ取ってくれたと思います。
そして子供たちも楽器に親しみをもち、音楽で人の心がひとつになれることを、おぼろげながらも分かってくれたのではないのでしょうか。

『楽しかった三日間』
月出小学校 五年生 秋田 千里
8月26日(木)、27日(金)、28日(土)の三日間、みなさんとすごせうれしかったです。最初の



来年もまた会おうね

参加者・スタッフの皆さん月出小での開催に大満足でした。

日にギターを教えていただきましたが、指のおさえたがむずかしくてこまりました。
次に、小川さんのピアノでいっしょに歌を歌ったのがとても楽しかったです。
三日目に、発表会でみなさんと一緒に演奏ができたことも良い思い出となりました。
また、みなさんと会えることを楽しみにしています。
(北里山通信員)

里づくり応援が来た!

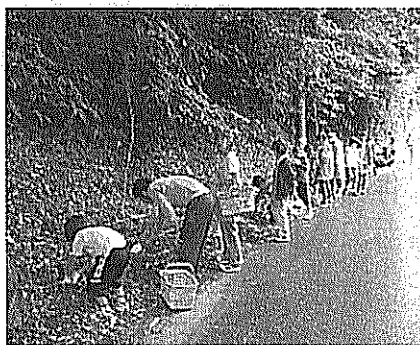
10月3日(日)小雨降るなか菜の花の種をまきました。場所は大久保の3反を越える休耕田。所有者の下中嘉平さんのご理解で実現しました。種まきに参加していただいたのはNPO法人ネモネットの皆さん。不登校や引きこもりに悩む親と子供の連絡協議会で40人の参加を得られました。足元がぬかるむなかどうなることかと思いましたが、みなさんが作業に参加していただき、来年の春満開の黄色いじゅうたんが楽しみです。
(大曾根里山通信員)



里づくりの輪が広がる 国本子供会

加茂里づくりの会では、「素敵なふるさとづくり」をできることから始めよう」を合言葉に活動を始めました。
8月28日(土)には国本子供会(平野英敏会長・10世帯、児童数14人)が通学路の美化運動の一環として協力をしてくださりました。

午前7時、台風16号の影響で小雨がぱらつくなか、お父さん達による沿線の草刈とゴミ拾いからスタート。ポイ捨てされた空き缶の多さにウンザリする参加者達。9時過ぎからは子供達とお母さん達も加わり、会で用意した200個のスイセンの球根を植えていただきました。来春、かわいいスイセンの花が通学路を飾ってくれるのが楽しみです。
国本子供会の皆様、快く許可をいただいた道路沿いの地権者の皆様、ありがとうございました。交通安全に当たっていただいたお父さん、ご苦労様です。
(大曾根里山通信員)



なれない作業もみんなでやれば一時間足らず



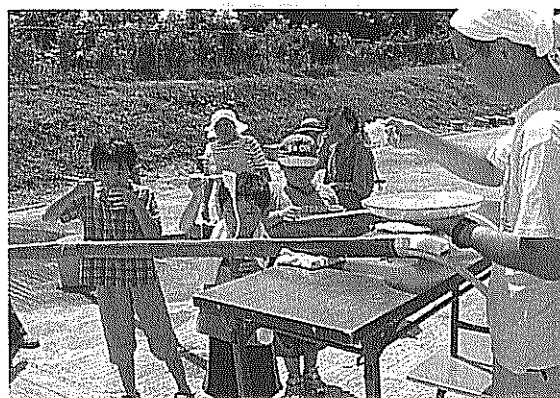
スイセンの球根を手に「ハイポーズ」

折津交流会

8月21日折津公民館で、折津子供会と老人会の高嶺会(折津・石神根向地区で編成)との交流会が行われました。
子供たちは、おじいちゃんおばあちゃんたちのゲートボールに挑戦!大はしゃぎでゲームに熱中していました。さらに昔ながらの竹とんぼ作りも体験しました。
そしてお昼には父兄の方々も手伝い、流しそうめんを楽しみました。流しそうめんには、お父さんたちが切ってきた立派な青竹が使われており、暑い中でも風情満点の昼食が楽しめたようです。
子供たちにとってはゲーム機もパソコンも要らない、手作りの遊びの交流会は大人になっても忘れられないひと時になったでしょう。おやこ三代、ほのぼのとした交流会でした。
(佐久間里山通信員)



子供たちはゲートボールに目覚めてしまいました。



流しそうめん「最高です」

より豊かで快適な 社会環境づくりを目指して

人と環境をどこまでも大切に。実り多き未来へ、
杉田建材は、地域の皆様と共に歩み続けてまいります

杉田建材株式会社

本社ビル 市原市馬立414-1
TEL.0436(96)1311
TEL.0436(24)0511
TEL.0436(50)0111
TEL.0438(25)4434
市原支店 市原市万田野2-6
TEL.290-0549
南支店 市原市惣社1-1-22
TEL.290-0023
木更津支店 市原市牛久450-1
TEL.290-0255
木更津支店 市原市吾妻2-7-20
TEL.292-0065

舗装の新提案!

ご自宅の駐車場など舗装をお考えの方へ
コンクリートでもなくアスファルトでもないエコロジー舗装
*現場の土を再利用だから安い
*無害・雑草抑止・カラー・透水施工もできます。

太陽工業株式会社

ISO9001:2000認証

代表取締役 大曾根 友三

〒290-0221 市原市馬立414-1
TEL.0436-95-3023 FAX.0436-95-2235

花火大会裏方奮闘記

昨年、市民花火大会の後始末について書きましたが、今年は裏方全般にわたってレポートします。裏方の実働部隊として高滝友和会と養老東朋会が活動していますが、一員として参加した養老東朋会の側からの報告です。

七月二十五日 草刈り

活動は三週間前のこの日朝8時から。駐車場予定地の草刈り。東朋会担当の場所が最大の難関は大成事務所跡地で車150台くらい収容可能な面積。ここは年に1回この花火のために草刈りをしていないので雑草やつるが伸び放題。場所によっては身の丈をはるかに超えて2・5メートルくらいに達し、刈るそばから覆いかぶさってくる始末。この状態での草刈の最大の敵は蜂。今まで足長蜂に出くわしたことはあるものの、ただひたすらスズメ蜂と出会わないことを願うのみ。参加者10名程度。この日気温35度を超え、やや風がある程度。つるは絡み付き、汗ダラダラ状態での奮闘は2時間に及び、次は高滝中学校跡地へ。ここは小学校関係者が時々草刈りをしていて、草もたいしたことはなく刈り易いものの、それでも小1時間ばかりかかる。この頃には頭の中はよく冷えたビールで一杯。それから各種案内看板を立て。今回は友和会の草刈りが早く済んだため、看板立ても大方やっつけられた。友和会はこの日、神社の秋祭りに使う担ぎ棒となる杉を下から神社まで担ぎ上げるといふ重労働もこなした。



つた今は、まず燃え広がらないように周りを中央側に寄せて燃やします。その後中に火をつける。今回は二日前に降った大雨でぬれていたため、草刈りをしてまず乾かすこと。この日も気温35度以上。いつからこんな温度が当たり前にあったんだ。と考える余裕もなく、容赦なく照らす太陽光線と、横からの草刈りの火の熱。またもや汗ダラダラ状態。そしてまたもやよく冷えたビールをひたすら渴望する。ペテランの中には草刈の仕上げに完璧を期すべく、今日も草刈に及ぶ者もいて、作業終了12時前。今日はバーベキュー。ビールが実にうまい。

八月十四日 花火大会当日

やはり朝8時集合。今回は神社下。観光協会の事務局や市の職員も参加。今日はまず駐車場の線引き。東朋会では高滝小学校・高滝中学校跡地・大成事務所跡地の担当。これも要領があつて、距離を決める者、指示する者、怪下をまつ者、運搬できる者、その怪下を荷台に腰掛け線引き器を転がす者、野次馬的に眺めている時々注文をつけたりしている者、さまざまな役割を毎年ほぼ同じような人間が担当しながら作業は進む。この作業が済むと、次は道路に駐車禁止用のポールを立て。軽トラの荷台にポールと重石のゴムを山と積み、その隙間に人が乗って移動。指定された区間にポールをどんどん置いていく。これも4・5人一組になり、運搬する者・荷台でポールを下ろす者、歩きながらそれを拾い立てていく者、これも毎年同じ人間が同じような役割をこなしている。

八月一日 草刈り

この日も朝8時集合。火燃しだけなら簡単だろうと思いきやこれが実は重労働。勝手に火をつけたいというわけには行かない。過去に幾多の失敗例がある。立ち木を燃やしてしまったり、隣の草に移ったりの小火騒ぎにとどまらず、消防車の大集合となつてしまったこともあった。(これは友和会)。また、昼飯の後に通りかかった時、消した筈なのにチロチロと行き、立木だけを残して一面きれいに焼け跡になっていたというところもあった。(これは東朋会)。幾多の失敗を経てプロとな

八月十五日 ゴミの片付け

この日は6時集合。6時間前に家に帰り、シャワーを浴びたんだかんだで寝たのは1時半。起きたのは5時半。この朝この時間に駆けつけたものはみんな同じような状況だったはず。この日天候は昨夜とは打って変わって雨。雨が降りそう。そして始めたたんの雨。昨日に比べ気温は10度以上も上がり、その上雨にぬれて寒くなりみんなあわてて上着をとりかえ。しばらくしても雨はやまず、事務局で中止の判断。しかしながらみんな動かない。中止となったので家に帰っていいのに、雨の様子を伺いながら夕べの花火はどうのこの話をしている。そのうちに雨は次第に小降りとなる。行動開始。片手にゴミ袋、片手に金バサミ。ダム湖沿いにおおの拾い集めていく。それが終わると車に分乗し、とり残しはないか、やり残しはないかぐるぐる見て回る。看板の片付け残しがあったり、駐車場にゴミがあつたりしたのも片付けて花火大会の裏方仕事をすべて終了。時刻にして8時半過ぎ。この後雨は本降りとなり、まさにゴミ拾いの時間帯だけの雨上がりだった。

寄付金募集の不公平

昨年も書いたが、花火大会の寄付金はなぜ企業や自営業者だけを対象にするのか。(一人二人の個人の例外を除く)その不公平さはまったく改善されることなく続いている。前にも書いたように、これは花火大会だけではなく、盆踊り、体育祭など市の行事の寄付金はいずれも同じ者たちを対象にしている。寄付であつて強制ではないというのはいくらも言わない。同じ市民であるのになぜいつも同じ者に寄付の要請をするのか。そのことに何のためらいもないのか。この不公平な事態をいつまで継続するつもりなのか。

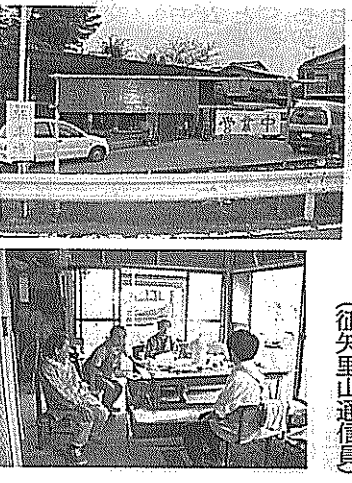
喜んで寄付している人間もいるだろうが、大抵は付き合いであつたり仕方ないとかあらめてのものであつたりで、寄付行為本来の自ら進んでというのとは殆どないというのが実態だろう。皆おかしなところだと思つてもなかなか言えない。しかし、声を発しない限り、事態は変わらない。もうみんな声を上げていかるときではないか。ただその声は前向きのものであつてほしい。市民が支える花火大会であるなら、その支え方に多くの人が知恵を出し合つたら、本当の意味での市民花火大会になるのではないだろうか。(矢張り山通信員)

里見直売所

回を重ねて四回目となった今回は里見直売所です。自然薯を作っていた人たちが直売所を開いたのがきっかけで、それだけではもったいないということで年間を通して産直になったものです。始めて5年ほどになります。営業は土・日のみ。営業時間は朝7時から夕方4時半まで。ほかのところもつと早く始めていたのになぜ7時からかというと、理由があります。この運営は5人で行われていますが、婦人が多く、朝の仕事を終えてからのこと。まず生活が優先です。量は多くないものの、さまざまなものがきれいに並んでいました。かぼちゃや南瓜・柿・きゅうり・唐辛子その他いろいろな野菜以外に、竹細工や毛糸で編んだタワシなどの工芸品もありました。9時ころまでがお客様の入りが多いとのこと。取材に訪れたのはその9時過ぎ。5・6人で和やかにまさにお茶の時間。

この日取材に応じてくれた大岩トシ子さんと大岩千代子さんによると、一品は売れても売れなくてもいい。それは二の次。みんなで一緒にやっているのがいい。近くにいても普段なかなか顔を合わせられないけど、産直やつてればこうして毎週顔を合わせられる。お茶を飲みながら話すが楽しい。とのこと。気負いもなく実に自然流。売る楽しみよりも集まって何かやる楽しみ。顔を合わせる楽しみ。そういう楽しみを持つたこの産直は長く続くことでしょう。

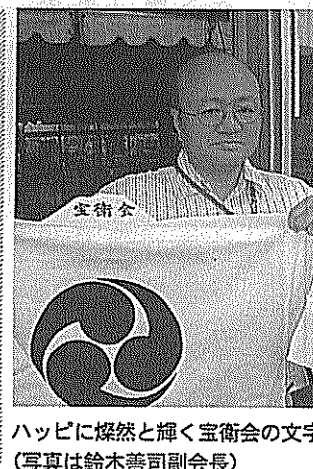
10月になるといよいよ自然薯の登場。ぜひ覗いてみて下さい。代表者は大岩真二さん(96) 1547 (矢張り山通信員)



直売所は徳氏のメインストリートにあります。なごやかな茶飲み話に花が咲く。

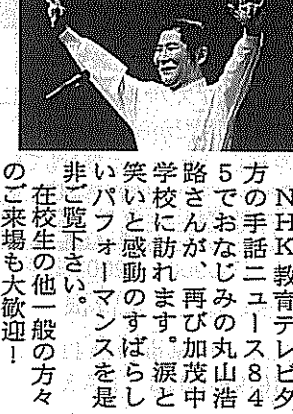
がんばれ！青年団

戸面宝衛会(秋葉光治会長)は、加茂地区最南部の戸面・夕木地区の若衆で構成されています。入会資格は二十歳以上、現在会員は21名です。元々、高滝神社と白鳥神社の神輿担ぎに参加することを主に結成され、さらに会員同志の親睦を図りながら活動中で、地元での地位を確立しつつあります。温泉街を控え、加茂地区でも独特な雰囲気を感じられる戸面・夕木地区は、特に地元愛の強い地域の様に思われます。古くからの行事なども大切に受け継いでいこうとする。そんな心意気が若い世代にもしっかりと根付いているようです。その表れとして、神輿担ぎのハッピーの襟には「宝衛会」の文字が縫い込まれています。そんな熱い心の宝衛会若衆は10月24日、高滝神社の神輿でパワーを発揮させます。ご声援よろしくおねがいします。(佐久間里山通信員)



ハッピーに燦然と輝く宝衛会の文字(写真は鈴木善司副会長)

感動の丸山浩路さん来る



NHK教育テレビの方の手話ニュース845でおなじみの丸山浩路さんが、再び加茂中学校に訪れます。涙と笑い感動のすばらしいパフォーマンスを是非ご覧下さい。在校生の他一般の方々のご来場も大歓迎！

加茂中教育講演会開催

日時 12月5日(日) 午後1時30分開演 場所 加茂中体育館

起承転々...

「今よりもっと素敵な加茂地区を地域の人に次代の人に」と志高く議論を重ねる市民会議の面々。いよいよタウンミーティングを迎え意見発表の機会を得たがさてその顚末は...

第8章 タウンミーティング

7月31日(土)午前10時、加茂公民館体育館で開催されたタウンミーティング。町会長さんや各種団体に案内を送り、折り込み広告にインターネット。当然里山通信にも載せました(7月25日号)

市民祭りを翌日に控えた土曜日の午前中。猛暑の続くなか冷房もない会場に集まっていた総勢79名の方々があつと...

「里の活性化」をテーマにしたお堅い会に有名人でもないただの素人が呼びかけたんですから。

ちなみに市民会議は市原市内を7地区に分けて各地でタウンミーティングを開催しましたが、参加者の数は加茂地区が第1位。人口比率で言えばダントツの出席率です。

第9章 ふるさとづくり

常泉委員(富山地区)の司会で始まったタウンミーティング。主催者挨拶から始まって、行政からは星野総合計画課長が市民会議の目的を含めて市の考えを述べていただきました。

いよいよ市民事業の発表へと移ります。まず、加茂地区の現状と課題。発表は本紙通信員でもある征矢委員。過疎、少子高齢化、自然の荒廃、「せつかくのふるさと」の風情がもつたないじやないか「なんとかしよう」と真剣に訴えます。

この現状を少しでも好転させるためには何処から何をはじめたらいいのだろう。部会のなかで議論したものを林委員(富山地区)が話してくれました。

将来的には、ゆとりある余暇をふるさととの安らぎのなかです。したいと思う人たちに田舎の自然や文化を、農林業体験などを通して提供し、住む人、訪れる人みんなの素敵なふるさと作りをしていきたい。ただしいきなり何でもかんでもやろうとしてもなかなか大変。「できることから少しずつでも始めよう」

市民会議見聞録3

そして、加茂地区の素敵な場所や風景をも一度見直そう。星もクワガタもいる。星もきれいだし四季折々の花も咲く。農地も山も(少し手入れが必要だが)都会には無い魅力がいっぱいじゃないか。そんな加茂のいい所を探して、「加茂の魅力いっぱいマップ」を作ろう。荒れた農地なら草を刈って花でも咲かせよう。そこから少しずつ加茂のよさを再認識していく。もったいなくふるさとにきつとなるはずだと力強い発言。

実際、林委員は富山地区で里山作りを実践していますので、なかなかの説得力と感じました。

第10章 バスを走らせよう

さて、もうひとつの柱である「交通問題の解決」こちらは飯塚委員(高滝地区)の担当。通学する小中高の児童生徒、それを送迎する保護者たち。これからどんどん増える高齢者の方々。「加茂地区にはどうしても公共交通機関が必要でしようし、これを手に入れるために地区のみんなで力を合わせよう」と訴えます。

しかし簡単には実現しません。路線バスが成り立つなら小湊鉄道がやっています。陳情で行政がやってくれるなら心配しませんが、この財政厳しき折、加茂だけにそんなサービスができる時代じゃないことは認識しなくちゃいけません。実際、m d s市原市内のあちこちで公共バスがほしと陳情しているそうですから。

でも、方法が無いわけじゃありません。地域のみなが力をあわせて「自分のこと」で知恵を出し合えば解決する道があるはず。始めなければ結果は無いのですから。

10月14日に加茂地区の町会長の皆様にお集まりいただいた一回目の会議を開催。本紙の締め切りが過ぎていきますので内容は記せませんが、興味のある方は加茂青年部のホームページを覗いてみてください。速報を載せるつもりです。

* 加茂里山通信で検索していただければ多分見つかると思います。

第11章 意見がいっぱい

出席者からは活発な意見が寄せられました。以下少しだけ紹介します。

* 総合計画に盛り込むための格好づけで無く地に足が着いた地域活動を目指してほしい。

土太郎の滝のようなものを生かしてハイキングコースを作る等ターゲットを絞った活動を期待する。(富山男性)

* 田舎で暮らしたいという人が友人にもいます。貸し農園もあればいいという人もいます。しかし特定の地域に限ったことかもしれない。貸せないという雰囲気です。うまくコーディネートできるようなれば活性化につながると思います。ですが事業の中に取り入れてはどうか。(富山男性)

* 道路のボーイ捨てがあまりにひどく、私たちは婦人何人かでゴミを拾う活動をしています。条例等でなんとかできないものだろうか。(白鳥女性)

* 私たち高齢者や運転できない者は非常に不便を感じています。バスが走ってほしいと思います。是非実現してください。(白鳥女性)

* 実際には活動をして実績を挙げている団体や市町村はたくさんあります。加茂地区には活用できる財産がたくさんあるはず。一歩を標したらドンドン膨らませて情報を発信し、共有し輪を広げてほしいと思う。(里見男性)

* 加茂にゆかりのある文化人などの資源もたくさんある。活用しないのはもったいない。

* 加茂地区をもっと元気にしようとして企画していることに敬意を払うがもっと広く情報発信して意見もよく聞いたほうがよい。(里見男性)

第12章 アンケート

会場ではアンケートも実施しました。結果は次のとおりです。

・参加のきっかけは? 積極的の14% 人に頼まれて27% 興味を持ったので36% 参加しての感想は? まちづくりの主体は地域でよい86% 行政でよい5% 両輪で7% 内容は? 理解した61% 半分理解30% あなたはまちづくりに関わりたいですか? かかわってみたい32% 条件付で48% 数字の合計が合わないところはその他、解答なしです。

このアンケートにはご意見記入欄もありました。元気な加茂を作るためのアイデアについてほとんどの方が複数のご意見を記入されていました。何点がご披露します。

・地域の特性を生かした地場産業の掘り起こし(朝生原男性)

・休耕田・畑・山林の活用(貸農園)について考える。(古敷谷男性)

・交通の確保。実現できればうれしい。(本郷女性)

・飯給地区の川回し跡地の活用。日本で一番遅い紅葉地として広葉樹の植栽。鉱泉利用の公共入浴施設。(飯給女性)

・加茂の特産品、山菜料理を入れた「おばあちゃん料理本」を作りたい。地区部会を強力にするために町会から2~3人の代議員を出したらどうか。(国本女性)

・鶴舞青年の家月出施設が閉鎖され月出小が廃校にでもなると元氣な加茂どころの話ではなくなる。月出施設を利用した活性化策も一緒に考えてください。(月出男性)

・40年前に877名で創立した加茂中も現在185名。子供が住みやすく子育てしやすい環境作り。学校でも生徒にまちづくりに関心を持たせてほしい。(平野男性)

・交通安全とゴミのボーイ捨て防止のため道路沿線の草刈を頻繁に。(田淵男性)

・小学校の学区を市全域に拡大し北部からの通学者を増やす。(五井男性)

・エコマネー制度を導入して支援する人とされる人がやりやすくなりませんか。(飯給女性)

・人材の掘り起こしと育成農林業体験ツアー。(月崎男性)

第13章 これからの加茂地区

市民会議に参加して、会議を重ね、タウンミーティングを開き、多くの事に気づかせていただきました。加茂地区に住む一人一人は地域の現状を十分把握しているし、問題点も理解している。解決のアイデアや方法もちゃんと考えている。実に立派なものだと思いました。何をいまさら「市民会議」だと大上段に構えなくても町会組織はしっかりしているし地区民会議もある。加茂はどんどん良くなるはずと樂觀すれども現状は? 誤解を恐れず思いを述べてみれば...

◇「あんも、そんな面倒くせえ事しねえったって、誰かがやってくれよ」と人が言う。私は心で思う。「その誰か?」どこの誰か? 「名前、年は、そいつはそんなに信用できるのか?」「その誰か?」そいつはそんなに一生懸命やってくれるのか? 「一度その人紹介してくんねえかい」

当てにならないどこかの誰かを待っている。何も始まらないことをみんな知っている。◇少し皮肉のこもったような笑顔で人が言う。「おめえ、それやっつて、あんないい事なんあつたか?」私は、はにかんだように答える。「いい事も儲けもねえけんが好きでやっつてんかん」恥ずかしくて「世のため人のため、地域のため」なんて言えつかよ。

これからは、心の中でとかく思わず「俺が、私がやっつてやる」と少しだけ力を込めて、「世のため地域のため、それが自分のため」と恥ずかしがらずに行動に移せる人たちが少しだけいてくれたら事態は好転していくような気がするのだが。

何も難しく大変なことはないなくてもできる事から始めればどうだろう。たとえば自分の家の回りの草刈をする。ついでに球根のひとつも植えてみる。「そういえばあそここのバラさんは一人暮らしで最近体も弱ったみたいだから草刈機出したついでにちいっとやっつてやつか。ついでに道の回りもやっつてやつか。役所も手がまわねえみてえだこんなことから地域が少しずつ変化を見せる。」

「そんなことは端からやっつて。町会上げて美化に取り組んでる」そのとおり。加茂の人は優しく思いやりをもった地域を愛する人ばかり。あとは現状にどうプラスしていくか。小さな一歩をどう踏み出すか。

協議会を作ったろうだろう。加茂地域で32町会。2~3人ずつ出してもらって64~96人。学校とPTA。消防団や敬老会。婦人にも参加したたいで総勢100~120人位を想定すれば加茂の問題課題がすぐわかる。解決の方法も3人寄れば何とかでアイデアもどうにかなる。「言いだしつてが責任取れなんてケチなことはいわない。みんなの課題として取り組んでいく。環境も、農地、山林地の問題も、交通問題の解決だつてめどが立つかもしれない。」「こうしたら良いのに。あれが出来たら良いのに。」という小さなアイデアを実現するための協議会。シンドイ事もみんなで取り組めば解決の道はある。

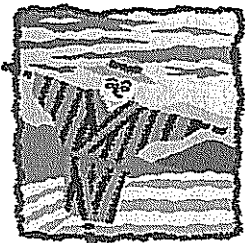
当てにならない「誰か」を当てにするより少しもたついても自分で解決するほうが爽快だと思いませんか。みんな忙しいのはわかります。でも地域のため、未来のため「ちよつとだけ無理」してみませんか。『みんなであらあ あわせりや てえげえなことあ できつてよ』 (大曾根里山通信員)

加茂米くらぶ

だより

今年の夏はホントに暑かった。全国的にも記録的な猛暑で、牛久観測所の40度を超える気温には、驚かされてしまいました。そんな夏場、全国各地での水害のニュースは35年前の加茂水害を思い起こすような被害でしたが、幸いなことに関東地区は免れました。そんな暑い夏が終わらぬうちに、今年もお盆明けには稲刈りが各所ではじまり例年以上の豊作でした。その分米価が安く農家のかたがたには「苦労されてる様ですが」...

さて今回は、旬について小生なりに感じていることを書きたいと思ひます。田んぼには、1年を通してたくさん旬を感じることが出来ます。春先には田植えによる土の匂い、さらに水を引入れたときの匂い、そして田植えのあと、苗の匂い、さらには、苗が成長すればつれだんだん強くなる稲の匂い、この後も刈入れが済み、次年度に備えて田んぼを耕すまでたくさん旬が続きます。いまではコンバインによる稲刈りがほとんどでオダガケも少なくなりました。先日小学校の稲刈りに参加したとき、刈ったばかりの稲の匂いが、オダガケにした夕方にはすっかり爽やかな匂いになっていくことに気が付きました。普段何気なく過ぎて行く中にも、こうして気をつけてみるとそれなりにたくさん旬を感じることができ、それが田舎の匂いであり、幸せなことなのかも、などと思ひます。



ちなみに小生が一番好きな旬は、初秋の夕方、稲刈りの山から立ち昇る煙の匂いですが、いかなせん少なくなりました。サビシ...

べつべつ語講座「今年の猛暑より」

「あつーな。あんでこんなあつーだおか?」「おとうさん、あついあつい、いわないでよ!」つちまであつくなるから「あああんかひやっけいもんねいか?」「ほんほんでいいならあるわよ!」あんだつてえつてえつてはやくしてくれ!」ところで、ほんほんアイスは山佐冷菓のオリジナル? ※べつべつ語講座パワーがおちいます。加茂地区の中でもまだまだ私の知らない方言ぜひ投稿してください。(戸沢里山通信員)

消防・花の消防団

11月14日 消防わくわく広場へ遊びに行こう!



日時 11月14日(日) 午前10時~午後1時
場所 高滝小学校グラウンド
(雨天の場合) 高滝小学校体育館及びグラウンド

目的 地域での消防団の活動や存在をPRするとともに、消防団への理解を求めながら、消防団員と地域の子供たちとのふれあいの場を作ります。小さい頃から消防団に対する親しみを深めて、将来の消防団員が育まれ、消防団の活性化につなげていく事を目的とします。

対象者 加茂地区の子供たち及びその家族
行事内容 各分団が行う各種模擬店、ゲームコーナー及びアトラクション(わた菓子、ヨーヨー、金魚すくい、ポン菓子、やきそば、綱引き他少年消防クラブの演技披露、消防団員の演技(ポンプ操法等)の披露、消防局救助隊演技、はしご車の体験乗車、起震車の体験乗車、救急発着車による警防及び救急活動の披露、消防車輦、救急車輦の展示、初期消火訓練の体験

主催 市原市消防団加茂支団
協力 市原市消防局南総消防署 加茂分署、加茂地区町会長会、市原市立高滝小学校

魚屋の戯言



鰯が美味しい季節がもうすぐやってきます。朝晩はすっかり冷え込んできたこのころ、そろそろ鰯が恋しくなってきました。鍋に合う魚は色々ありますが定番はやはり鰯でしょう。鰯には言わずに及ばず、湯豆腐や寄せ鍋等も美味しいものです。何と言っても値段が安いのが嬉しいですし、食べていると独特の甘みが口の中に広がって思わず頬が緩んでしまいます。

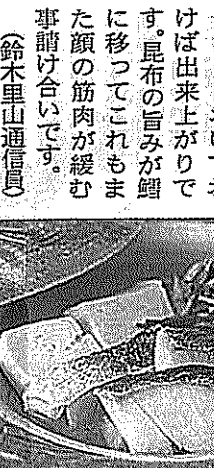
鰯には真鰯や助宗鰯、ひげ鰯等々何種類ありますが、鍋にはやはり真鰯か銀鰯がいいでしょう。切り身の大きさは味には関係ありませんが、魚体は大きい方が美味しいようです。

買つてはいけないうのは冷凍の真鰯です。真鰯は冷凍すると繊維がバラバラになってしまつて美味しくないありません。不味いと言つても差し支えないと思ひます。但し銀鰯は日本近海では獲れないので全て冷凍の輸入なのでこの限りではありません。鮮度のいい真鰯は身に透明感があり、プリプリしていて実に旨そうに輝いていますが冷凍のものにはこれがありません。

忘れてはいけないうのは白子です。少々お値段が張つてしまふのが難点ですが市場でさばいた鰯から出たばかりの新鮮な白子は臭みもなく、生でも軽く焼いても実に美味しいものです。助宗鰯は身よりも雄が持つている真子に人気が集まっています。たらこや辛子明太子と言つた方がわかりやすいかも知れませんが、余談ですが明太(ミョウゴ)というのは韓国語で鰯という意味だそうです。

当店では冬場に鰯の昆布締めを作つてお店に並べる事がありません。これはご家庭でも簡単にできるのでは是非お試しください。

昆布を少量の日本酒で温らせて柔らかくしてから鰯の切り身を包み、更に食品保存用のラップで乾燥を防いで冷蔵庫で1、2日おいておけば出来上がりです。昆布の旨みが鰯に移つてこれもまた顔の筋肉が緩む事請け合ひです。



通信員紹介



川屋店主 戸沢優之

戸沢優之(とさわ まさゆき)

昭和29年生まれの50才。すでに青年部という呼び名が似合わない年になってしまった。(本人はあまり気づいていないようだが、早く自覚しろと呼ぶ声あり)もともとお祭り好きのイベント好き。結婚式こそ最高のイベントとリキンド彼は、高滝神社の神前結婚式で花嫁を馬に乗せて入場させるという派手なパフォーマンスをやつてのけた。酔つて白状したが「若い嫁さんに逃げられないように必死だった」これはどうやら本音らしい。千葉日報をはじめ3大紙にも取材依頼をしたらしいが、この辺が必死さの表れか。

魚屋の傍ら高滝湖観光組合でボートを操り、合間にLPガスも配達する超多忙人。昨年まで高滝小のPTA会長を務め商工会議所青年部にも参加する。里山通信では「加茂米くらぶ」に担当。べつべつ語講座を楽しみながらこなす器用なところがある。*必死に娶つた嫁さんとは最近会話もないらしい。トホホホ...

主婦の声

最近我が家は冠婚葬祭、特に新盆等でも近隣のお付き合いでサラリーマンの給料ではやって行けない程です。農家の収入が全くない私にとって仕事を休み手伝いにいき、それなりの出費もかさみそれが必要の無い品物に代わつてお返しとして戻ってくる。生活改善を唱えると、昔からやってきた事だと言う。若者離れも進んでいく訳です。働きの人達への親戚それぞれの寸志や行事の簡素化、或いはお返しは商工会議所のお買い物券の発行で自分の欲しい物が買えるとか。出来たらいいですね。

編集後記

加茂の里ももうすぐ秋祭りです。10月24日の高滝神社秋の祭礼には、祭りの華である宮本郷・上郷・平蔵郷の神輿が練り歩きます。読者の皆さんの中にも神輿担ぎの経験者は沢山いるでしょう。元々、けんか神輿であった加茂の神輿は男性限定ですが、東京三社祭など女性も参加できる神輿もかなりあるようです。加茂の無子さん達の中にも経験者がいて、お祭りになると血が騒ぐ方がおられるかも知れませんね。

しかし、加茂の神輿の担ぎ手として指名された人々、家柄などで仕方なく回ってくる人も、重くて肩が痛い「疲れて次の日仕事にならない」と嫌々やっている人が多いのは少し寂しい気がします。実際、600kg前後の神輿に対して、担ぎ手の数は他の祭りより少なく、一人一人の負担はかなり大きい感じがします。そんな中、担いだ経験のある方で「ワッショイワッショイ」苦しいけれど声を出して歩を進めている時、「ふ」と肩が軽くなり(決してサボった訳ではない)下がりかけた神輿が上がつた覚えがありませんか?不思議な事ではないんです。神輿担ぎでよく言われる「息が合った時」なのです。皆の声と上下動のタイミングがぴったり合った時に一気にパワーが出たのです。担いでいる時、自分のペースだけでやみくもに力を入れるのではなく、皆の掛け声を聞き、力を感じてリズムを合わせる。何度か担いでとても大切な事だと思ひました。なにか私達の暮らしの中、全てに当てはまる様な気がします。

次回新年号は1月20日発行予定です。
加茂青年部ホームページアドレス
http://www.yo-to-kadoya.co.jp/kamosenbu/